

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	長野県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	長野県千曲市立戸倉小学校(H15.4時点 埴科郡戸倉町立戸倉小学校)								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	2	2	2	2	2	16	25
児童数	72	78	56	61	65	62	9	403	

研究の概要

1. 研究主題

楽しく学べ、確かな学力のつく指導はどうあったらよいか  
 ~国語科、算数科の少人数習熟度別学習の授業改善を通して~

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・5年生・国語  
6学年は平成14年度より算数科において研究を積み重ねてきているので、国語においては、5学年において研究実績を積もうと考えたため。
- ・6学年・算数  
学校として当該教科に関して平成14年度より研究を積み重ねてきているので

(2) 年次ごとの計画

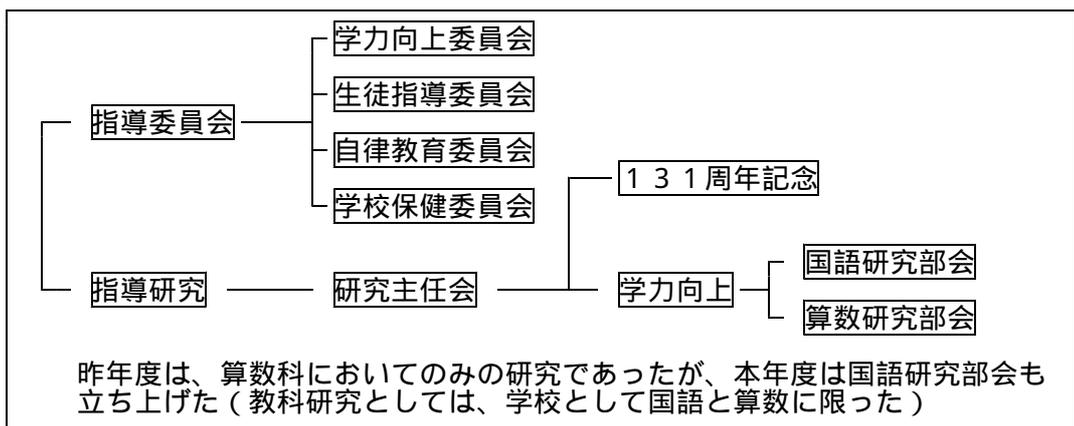
平成14年度	<p>テーマ                      楽しく学べ、確かな学力のつく指導はどうあったらよいか                      研究の見通し(仮説)                      できる楽しさ、分かる楽しさ、考える楽しさ、体験する楽しさ、友達と練習上げていく楽しさ、学力を使える楽しさなど授業の中に取り入れていけば、確かな学力を育むことができるであろう</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1)個に応じた指導のための教材開発                      ・基礎計算力の強化ドリルプリントを自校で作成、各学年30枚を毎週火曜日の朝15分間の「チャレンジの時間」に実施</p> <p>(2)個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善                      ・少人数学習における習熟度別授業の実施。4~6年の国語・算数各学年2学級を3コースに分けて実施。                      ・教員の得意分野を生かした教科担任制を導入し、多様な取り組みを積極的に実施。                      ・つまずきのある児童に支援できる時間を金曜日の6時間目(児童会とクラブがない時)「ふれあいタイム」として確保。理解不十分な点を補充。</p> <p>(3)学力の評価を生かした指導の改善                      ・授業の理解度を児童に評価させる自己評価カードを用い、個の学びのよさに気づかせる。                      ・自己の頑張りが点数で分かる事前テストを単元導入時に実施し、成長の過程を感受させる。</p>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ                      楽しく学べ、確かな学力のつく指導はどうあったらよいか                      研究の見通し                      人や教材とのかかわりを大切にしながら、学ぶことへの意欲・やる気を育むように個に応じた指導を積み重ねていけば、楽しく学べ、確かな学力が                      つくであろう</p> <p>研究の内容・方法</p>
--------	--

- (1)個に応じた指導のための教材開発
  - ・やる気を育むチャレンジ学習（基礎基本の定着）のあり方
  - ・単元における教材研究、教材開発
- (2)個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善
  - ・習熟度別少人数学習（コース別学習）のあり方
  - ・個の内面の思いをとらえるといった実態把握のあり方
- (3)児童生徒の学力の評価を生かした指導の改善
  - ・評価規準の作成と修正 評価場面、評価方法を明確にしたものを作る
  - ・指導と評価の一体化 評価規準達成へ向け講じた個に応じた指導が適切であったか否か、自らの指導を見返すための評価を大切にいく
  - ・学びの価値を児童自らが実感できる学習の見返し(自己評価)のあり方

平成16年度	<p>テーマ 楽しく学べ、確かな学力のつく指導はどうあったらよいか 研究の見通し 人や教材とのかかわりを大切にしながら、学ぶことへの意欲・やる気を育むように個に応じた指導および評価を積み重ねていけば、楽しく学べ、確かな学力がつくであろう 研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)個に応じた指導のための教材開発           <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童自らがつまずきに応じフィードバックできる計算チャレンジドリルの作成</li> <li>・学習意欲のわく漢字チャレンジのあり方</li> <li>・単元における教材開発をさらに進めていく</li> </ul> </li> <li>(2)個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善           <ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度別少人数学習のあり方</li> <li>・少人数専科がかかわれない学年においても習熟度別学習を工夫する</li> <li>・各単元の前にレディネステストやオリエンテーション授業を実施</li> <li>・個の内面の思いをとらえ、それを生かしていくための実態把握・指導方法のあり方</li> <li>・やる気が育まれる補充の時間（ふれあいタイム）の充実</li> </ul> </li> <li>(3)児童生徒の学力の評価を生かした指導の改善           <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を通しながら評価規準を修正していく</li> <li>・意欲、やる気がでてくる評価のあり方</li> <li>・学びの価値を児童自らが実感できる学習の見返し(自己評価)のあり方</li> </ul> </li> </ul>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- < 国語科 >
- 1. 個に応じた指導のための教材開発
    - (1)各学年の発達段階や実態などから取り組んだ方法に違いはあったが、どの学年も漢字チャレンジが定着してきた。
    - (2)漢字チャレンジの出題方法を工夫することによって、意欲的に家庭学習に取り組むような姿が育ち、漢字がだいぶ定着してきた。現4年生は、昨年度（3

年時) 学期末の漢字まとめのテストなど全国平均よりも低い60点くらいだったものが、今年度は70点以上に上がった。

- (3) 5年の「わらぐつの中の神様」の単元では、登場人物がわらぐつをつくるのがどのくらい大変なことなのかを体験するため、総合的な学習の時間で育てた稲を使って、わら草履作りを試みた。こうした体験が登場人物の心情を読みとっていくのに大変効果的であった。

## 2. 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善

- (1) 少人数習熟度別学習に取り組んできた。コースとして、ゆっくりコース(基礎)、じっくり1・2コース(定着)を設けてきたが、「ゆっくり」では、課題をしぼり、音読を繰り返すことで、それまで学級の授業の中では書く時間に手間取ってしまっていたり、なかなか自分の発言を言い出せなかったりした子どもに時間と安心の空間を提供してきた。それにより、今まで漢字練習などほとんどやろうとしないでいた子が毎日欠かさずやるようになり、漢字テストでも8割をとるようになってきたり、授業において自分の考えをしっかりと述べたりすることができるようになるなど学びの意欲が向上してきた。

- (2) 「じっくり」の定着コースでは、学びのスタイルの傾向性から「書くこと」に力を入れるコースと「話すこと」に力を入れるコースといったように特徴を出すようにしていった。それにより、同じ傾向性をもった友達との学びの中で、徐々に苦手意識もなくなりながら、抵抗感なく学習に取り組んでいけるような子どもが育ってきた。

## 3. 児童生徒の学力の評価を生かした指導の改善

- (1) 評価場面、評価方法を明確にした評価規準を作成してきたことによって、指導の過程において適切に評価をすることができるようになった。
- (2) 評価規準を明確にすることによって、各コースの実態に応じどのようにしてそのねらいにせまっていっていかを吟味してきた。それにより、学習活動に違いが出たが、そうしたことは児童の学習に対する意欲を育んできた。

### <算数科>

## 1. 個に応じた指導のための教材開発

- (1) 1年生から6年生の計算領域(整数、小数、分数の四則計算)にしぼったフローチャート形式の計算チャレンジを作成した。学年別の範囲を記載していないため、どの学年の児童も取りかかりに抵抗なく取り組むことができている。進み方に個人差はあるものの、着実に基礎的な学習内容に触れることができ、自分のつまずきにも気づきながら学習を進めることができるようになってきた。

- (2) 単元における教材開発を推進して行く中で、次のような教材開発のポイントが大切であろうと示唆されてきた。

- ・児童にとって身近な存在であり、自分の生活と関わっていること(日常場面から素材を探す)
- ・具体的操作が容易で、実感できること(個に応じて、変形や加工、修正ができる)
- ・児童に必要感が感じられるもの(必要感を持たせる)
- ・多様なものの見方ができるもの

## 2. 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善

- (1) 少人数習熟度別学習に取り組んできた。コースとして、ゆっくりコース(基礎)、じっくりコース(定着)、のびのびコース(発展)を設けてきた。学習を進めて行く中で、単元に入る前のレディネステストの重要性が示唆された。それは、学習を進める上で必要な内容の復習になるだけでなく、指導者が学習を進める上で有効な教材や手だてを考える上で有効である。

- (2) 「見つけていく 分かっていく できていく 広がっていく 深まっていく」といった学習の流れが楽しい学びを作り出していく。

- (3) 吹き出しを活用することによって児童の内面の思い、考えをとらえることができるようになってきた。また、そのとらえをもとに授業を組み立てることによって、個が生かされ、充実感のある授業が作り出されていった。

## 3. 児童生徒の学力の評価を生かした指導の改善

- (1) 評価方法を明確にすることによって、今までなかなかとらえづらかった数学的な考え方といったものもとらえ、評価できるようになり、その育ちを見取することができるようになってきた。

- (2) 評価規準達成へむけてつまずくことが予想される児童への手だてをよく吟味するよう心がけてきたことにより、必然的に評価規準を修正するようになり、より児童の実態に即した指導を心がけるようになってきた。

- (3) 授業後には、感想だけでなく、「分かったこと」なども書かせるなどして、学習の見返しを大切にしてきた。これにより、教師自身が自らの指導のあり方を見返す事ができるようになり、反省を次に生かせるようになってきた。

### <全体>

参観日などの授業にのぞむにあたって、本時つける力といった「評価規準」を

明確にするだけでなく、「個に応じた指導」「予想されるつまずき」および「つまずきに対する支援」さらに「やるき・意欲を育むための支援」といったものをしっかり検討し、参観者に明示するようにしてきたことによって、その1時間の中でどのような子どもを目指すのか明確になり、的確な指導支援ができるようになってきた。

## 2. 今後の課題

### <国語科>

1. 漢字チャレンジのあり方
  - ・本校として統一した漢字チャレンジにしていく
  - ・漢字チャレンジを授業時間内に組み込むようにしていく。授業開始5分間をそれにあて、授業時間内で漢字学習に削られる分、年間授業時数において国語を10時間程度増やす。
2. コース別学習のあり方
  - ・少人数学習を年間計画の中で、単元毎、習熟度、課題別、学級の学習に考えていく。
  - ・国語において習熟度別コースを作る際の基準作りについて検討。

### <算数科>

1. チャレンジ学習を、つまずきによりフィードバックするところが違うような形式に変える。
2. 少人数専科がかかわれない学年も習熟度別授業が展開できるよう工夫する。
3. 各単元の前に、レディネステストやオリエンテーション授業ができる時間を確保していく。
4. 努力を要する児童に学習を補充できる「ふれあいタイム」の位置づけ。
5. 授業を通して評価規準を修正する。

## 学力等把握のための学校としての取組

- ・CDT 観点別学力到達度診断調査 5, 6年の各学級 国語、算数 1学期
- ・県学力実態調査 4年以上の各学級 国語、算数 2学期
- ・その他 単元テストにおいて全国の平均との比較  
本校としてどんな観点に弱点があるか把握し、指導の重点の決めだし

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1. 学力向上フロンティアスクール2年次公開として 12月2日に授業公開 県下の学校に公開の案内をした。また、保護者ならびに地域の方々にも公開予定のお知らせをし、参加を呼びかけた。
2. 啓林館のHPの「教育改革への取り組み」への原稿依頼を受け、投稿した。HPを閲覧した他県の学校より、「本校でも授業を公開する」との案内通知がいくつか届いた。
3. 学力向上を願って作成してきた漢字チャレンジ作成ソフト等のソフトをネット上で公開している。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                   13～18学級                       19～24学級  
                                   25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                   一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
                                   生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
                                   体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                       無